

## 日本ゼオン、高岡で精密光学研究所機械加工棟竣工

2006年3月31日

日本ゼオン（社長 古河直純）は、3月31日、高岡工場（富山県高岡市）で精密光学研究所機械加工棟の竣工式を行った。

当機械加工棟は、超精密成形加工に必須の光学設計機能、精密金型設計・加工機能、精密部品自作機能ならびに試作成形機能などを充実させ、研究開発機能のスピードアップをはかり、技術のブラックボックス化を図るものである。

主たる設備としては、精密光学部品や超精密部品の設計シュミレーションシステム、各種超精密加工用工作機械およびそれらをコントロールするコンピューターシステム、試作用成形機類、光学性能や耐環境性能等の測定機器等を設置する。

基本機能は、顧客からの設計図を読み取り、自動的に製品を三次元画像化し、精密成形に必要な超精密加工部品を作成し、成形して試作品を完成させる全自動システムである。なお、コンピューターシステムは株式会社インクスの協力を得て開発した。

具体的には、たとえば液晶テレビバックライトユニットの消費電力を削減するための機能材料であるパターン付拡散板を顧客の製品別に全自動的に図面を読み取り、製品毎に適した光学パターンを設計し、金型を設計・製作し、金型製作から成形試作までの期間を7分の1に短縮し、かつ製作費も2分の1以下にすることを実現する。これにより顧客への製品納期短縮と金型費用の削減を通じて産業界に寄与するとともに、当社においては技術の完成と拡散板事業の強化をはかっている。

当社は昨年2月に、それまで神奈川県川崎市の総合開発センター内にあった精密加工機能を高岡に移転し精密光学研究所を設立し、研究開発機能と生産機能を担う高岡工場の一体化を実現し、相互の対話を促進することでより一層の開発スピードアップを行っている。


今回の機械加工棟の設立により 高品質精密光学製品を低コストでスピードを上げて供給する生産技術の向上とブラックボックス化を図る。

また、中期経営計画（PZ-3）において、高機能材料事業ではゼオン固有の材料を活かした精密加工技術の強化を基本戦略の一つとあげており、当研究所と現在川崎市で独創的技術の研究開発強化・促進を目的に建設中の、総合開発センター内次世代研究棟10号館は連携をとりながら、テクノロジープラットフォームの強化と次世代事業創出を図ってゆく。

## 補足説明

当社は、熱可塑性高機能透明樹脂シクロオレフィンポリマー（COP；製品名 ZEONEX®（ゼオネックス）、ZEONOR®（ゼオノア））およびCOP精密加工品から成る高機能樹脂事業を当社の今後の成長の柱の一つとしており、近年、積極的に開発・設備投資を行っている。

また、精密光学研究所はカメラ、DVD、携帯電話、液晶テレビ、パソコン、ゲーム機などに使用される各種光学フィルムおよびレンズ、プリズム、拡散板などの光学製品の設計、開発および生産技術開発研究を行っている。

 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 **CSR**統括部門 広報室

Tel : 03-3216-2747

[▶ お問い合わせフォーム](#)